一 般 演 題

1. West症候群における脳血流SPECTの有用性

藤森 研司 森田 和夫 (札幌医大・放)
末岡 裕文 若井 周治 (同・小児)

West症候群7例(潜因性4例,症候性3例(滑脳症,結節性硬化症,脳腫瘍術後))について発作間欠期に脳血流SPECTをおこない,脳波,CT,MRI所見と比較検討した.潜因性群3例,症候性群2例で血流分布の異常を認め,そのうち3例でSPECTの異常と脳波の異常所見の部位は一致した.また治療前と治療中に2回検査をした潜因性の1例では発作および脳波の改善とともに脳血流分布の異常も改善した.

潜因性のWest症候群は現在のCT,MRIでは明らかな異常を指摘し得ないが,その中にも脳血流SPECTで異常が見られる症例があり,治療とともに改善が見られることから,脳血流SPECTはWest症候群の診断においても少なからず重要な情報を提供しうると思われる.脳血流分布の異常の有無がWest症候群の予後に予測因子として寄与するか否か,興味深い.

2. てんかん発作重積状態の ^{99m}Tc-HM-PAO と ^{99m}Tc-ECD画像の差異について

畑澤 順 相沢 康夫 犬上 篤
菅野 巖 上村 和夫 (秋田脳研・放)

[目的]てんかん焦点の検出のために行われるSPECT/脳血流検査において,^{99m}Tc-HM-PAOと^{99m}Tc-ECD画像の差異について検討する.[対象と方法]てんかん発作重積状態の2例.ともに二次性てんかん(第一例;45歳男/Sturge-Weber症候群,第二例;49歳女/破裂脳動脈瘤術後慢性期).^{99m}Tc-HM-PAO 740 MBq投与後,30分間撮像.直後に^{99m}Tc-ECD 740 MBq投与.30分間の撮像.後者から前者の画像を減算し,ECD画像を得た.[結果]第一例では,いずれのトレーサでも左側頭葉に高集積を認めた.第二例では,HMPAOのみ右前頭葉に高集積を認めた.[考察]てんかん発作中の血流増加時に,^{99m}Tc-HM-PAOと^{99m}Tc-ECDの集積の程度は,必ずしも一致しない.トレーサの体内での安定性,代謝,動態の違いによると考えられる.

3. パーキンソン病における ^{123}I-Iomazenil SPECTを用いたベンゾジアゼピン受容体分布の検討

小田野行男 高橋 直也 大久保真樹
大滝 広雄 野田 栄吉 羽田野政義
(新潟大・放)
石川 厚 (同脳研・神内)

パーキンソン病を対象に^{123}I-iomazenilによるSPECTを施行し,1)受容体結合の脳内分布,2)病期,3)MMSテストとの関係を分析した.受容体結合の定量にはTable look-up法によるBinding Potential (BP)を用いた.パ病のBPは脳全体で50%以上低下していた.1)脳内BPの分布パターンは前頭葉<側頭葉<頭頂葉<後頭葉の順序で,正常人の分布と明らかに異なり,前頭葉・側頭葉および基底核におけるBPの著明な低下が特徴的であった.2)病期の進行とともに前頭葉・側頭葉のBPが低下する傾向が見られた.3)MMSスコアと前頭葉のBPの間には正の相関が見られスコアが低いほどBPも低下した.

4. ^{99m}Tc-ECD dynamic SPECTの有用性

秀毛 範至 高塩 哲也 遠山 節子
斉藤 泰博 山口 香織 山田 有則
吉川 太平 吉田 弘 早坂 和正
竹井 秀敏 油野 民雄 (旭川医大・放)
佐藤 順一 石川 幸雄 (同・中放核)

^{99m}Tc-ECD dynamic SPECTを通常のSPECT撮像前に施行し,その有用性を定性的に検討した.通常のSPECT撮像で従来の^{99m}Tc-HMPAOまたは,^{123}I-IMPとの間に所見の乖離が認められた2症例(ヘルペス脳炎,脳動静脈奇形)は,いずれもdynamic SPECTの早期血流画像では,HMPAOまたはIMPに一致する

Presented by Medical*Online